平成21年11月11日（日）小雨
平成21年11月12日（月）晴れ
谷川　オジカ沢、ヒツゴー沢

メンバー：白土（L）、三井、奥平、熊崎（記）

谷川温泉脇の駐車場から出発。谷川沿いの登山道を歩き、二俣で沢シューズに履き替える。オジカ沢に入ると、程なく最初の15m滝が現れる。白土さんトップで右側の岩壁をザイルを出して登る。出だしが濡れた外傾スタンスでいやらしいが、上部は比較的ホールドがある。残置もあった。小さな滝を挟んで、右側がえぐれた8m滝。ここもザイルを出して三井さんトップで滝の左側の岩を左上に斜上し、草付を落口へトラバースする。

さっきから小雨がしんしんと降り、一向に止む気配がない。時々風が強く吹き降りこめられる。寒い。秋晴れのもと快適な登攀をイメージしていただけに、ただ寒いだけの遡行は気が進まない。

この先は小滝や河原が続くように見えるが、その後に、40m級の滝が3本ほどあるらしい。4人ではフィックス通過も時間がかかる。と言うわけで、全員一致で引き返して、出合で泊まり、翌日、ヒツゴー沢を登ることにする。

越えてきた２つの滝の落口には、幸い、ボルトの懸垂支点がある。下の滝の懸垂が問題だった。初め、右岸側のボルトを使って白土さんが懸垂したが、釜の中に着水。腹まで水に浸かる。それを見た残り3名は左岸のボルトから懸垂するが、これが良くなかった。釜の深さは腰程度だが、滝の下部で瀑水をもろに浴びるため、懸垂中に体勢が崩され、横倒しになり、全身ずぶ濡れとなる。お～さぶ。

最初は出合でテント泊のつもりだったが、相変わらず天気は回復しないし、全身ずぶ濡れで骨の髄まで冷え切ったので温泉まで戻って出直すことにする。

谷川温泉まで戻り、暖かい風呂に入って復活。風呂の従業員によると近くにコインランドリがあるとのこと。濡れた衣服を乾かす。さらに、すぐ近くの食堂あしま園で豪勢な夕食にありつく。2人分位のボリュームに胃袋が破裂寸前となった（ミニメニューでも十分）。さらに、スーパーで酒・肴を調達。温泉近くの誰もいない貸切状態の広い駐車場（きれいなトイレ付）でテントを張り、快適な一夜となった。文明ってすばらしい。

翌朝、今日は快晴。稜線までよく見渡せる。出合で沢シューズに履き替える。しばらくゴーロを行くと、逆くの字形の15m滝が現れる。下部は右から登り、バンドを辿って、上部は左の草付を巻く。踏跡は明瞭。次から次へと息つぐ間もなく小滝が現れるが、どれも快適に直登できる。やっぱこれだよ！てな具合に登る。昨日とは大違いだ。上流部へ来ると、ゴルジュ状になる。10m チムニー状の滝は右側を簡単な岩登りのあと、落口へバンドをトラバースする。高度感があるが、残置シュリンゲもあり、スタンスも大きい。そこから少しで、今度は20m位のチムニー状滝が現れる。最上部の様子が下からではよく分からず、ザイルを出す。水流右側の岩を登るが、ホールドは大きく快適に登れる。そこを抜けると河原状になり、奥に10m滝が落ちている。ここもザイルを出して右側から登るが、難しくはなかった。

小滝をひたすら登ると、やがて水が涸れ、藪に突っ込む。踏み跡を辿って稜線に出ると、登るはずだったオジカ沢の源頭と万太郎山の稜線が爽快だ。集中場所の肩の小屋もすぐそこに見える。

肩の小屋には13:00の集中時間ちょうどに到着した。しばし歓談。アフロのお茶目な新人がいて面白い。記念撮影の後、下山の長い長い列に加わる。さすが休日の百名山。途中で本隊と別れ、厳剛新道に入り、落ち葉の降り積もったふかふかの道を降りる。ぶなの大

木がきれいだ。二俣に下りて、レーションをパクついていると、ヒルが1匹、物欲しそうに、よれよれと手招きしていた。

タイム　10月11日 駐車場発7:00二俣8:30 8m滝上11:00　二俣13:00　駐車場14:30
10月12日駐車場発5:50二俣7:15 10mチムニー滝9:15肩の小屋13:00二俣16:00駐車場17:30